

自治大卒業生の声

自治大学校卒業生（第2部課程第199期）

愛知県愛西市 若松 孝志

編集者注：本稿は、自治大学校における研修の特長などについて、自治大学校の卒業生が記したものです。

1 はじめに

愛西市は愛知県の西端に位置し、木曾川を挟んで岐阜県および三重県と接する人口約60,000人のまちです。

本市では、毎年1名の職員を選抜して自治大学校へ入校させており、自治大学校を卒業している先輩方は幹部職員として第一線で活躍しております。また、副市長より自治大学校への研修派遣の声をかけていただいた際は、大変身に余る思いでありました。しかし、様々なことを勉強できる機会であり自分自身が成長できるチャンスだと捉え、「お願いします」と即答しました。家族や職場の方々の理解もあり、研修派遣が決定したときは、大変うれしく思うと同時に「頑張らなくては」という気持ちが込み上げてきました。

2 研修が始まるにあたって

研修が始まるにあたり、研修期間中の寮生活や全国から集まる研修生との人間関係、新型コロナウイルス感染症等の健康面などの様々な不安はありました。また、私自身の息子が高校入試を控えていることなど家庭においても少し気に掛かることがある中、自治大学校へ参りました。入校式から始まり、講義や演習を全国から集まった研修生と一緒に学ぶことにより、自身にも新しい気づきが生まれ、各地域の話聞きながら交流を深めていくと不安は楽しみへと変化していきました。

3 基本法制研修B第9期

基本法制研修Bは、10月28日から11月17日にかけて行われました。講義が中心となり、行政法・民法・地方自治制度・地方公務員制度・地方税財政制度の5科目を受講しました。地方公務員としての基本法制を体系的に学ぶ機会はなかなか無く、職務を遂行するに当たっての法的知識はもちろん、法的感覚・思考の重要性を実感する大変貴重な機会でありました。同時に、市民に対しても知識に基づいた説得力のある説明の必要性を感じる事ができました。

また、最後には効果測定(テスト)があり、緊張感がある状態で講義を受ける事ができました。学んだことが自分自身の知識となり、今後職員研修等を通じて後輩に知識、経験の継承をしていきたいです。

4 第2部課程第199期

第2部課程研修は、1月23日から3月15日までの約2か月間で行われました。研修が始まる直前には、日本列島を大寒波が襲い各地で大雪による交通障害等があり、全国各地から集まる研修生が心配でありましたが、3か月ぶりに元気な顔を見て安堵したのを覚えております。そして、第2部課程研修が始まりました。

自治大学校の研修は、各分野の先進的な活動をされている講師陣による講義と、研修生が相互に議論し実演する演習がありました。

講義では、様々な分野でご活躍されている著名な方々を講師として、各分野において国や地方公共団体が抱える諸課題について、最新情報や制度改革の動向、具体的な取

組事例などを学ぶことができました。

演習科目では、グループに分かれ、特定の自治体の特色ある取組事例を題材に議論・検討する「テキスト型」の演習や、研修生の所属自治体で実際に直面している行政課題を議論・検討する「持寄型」の演習、首長に提言することを想定して行政課題の解決に向けた政策を企画・立案する「政策立案演習」などに取り組みました。特に政策立案演習は研修全体を通して多くの時間を費やしています。1グループあたり5～6名で編成され、各グループは各自が持ち寄った政策に関するテーマから、グループのテーマを選択します。テーマが決まったら、現状分析・課題抽出・政策提言・政策効果についてメンバー全員で一つ一つ議論を重ね、外部教官の指導を仰ぎながら報告書にまとめていきます。限られた時間のなかで膨大な業務量からなる報告書を作成するためには、メンバーそれぞれの特徴を活かしながら取り組む必要があります。また、実地調査においては、テーマに沿った先進自治体や関係企業を訪問し、貴重な経験もさせていただきました。政策立案演習を通して、政策立案能力だけでなくコミュニケーション能力やマネジメント能力の面でも大変有意義な経験となりました。



政策立案演習チーム

5 全寮制の研修生活

私自身、今まで一人で生活する機会がなかったため、2か月半という期間を寮生活するということが初めての経験でした。何もかもが初めての経験であり、特に洗濯や食事に関しては、普段如何に無意識にあたりまえに生活を送っていたかということに気づかされ、あらためて家族や身近な方々に対する感謝の気持ちを実感するとともに、自身を見つめ直す貴重な機会となりました。

また、全国各地から集まった同期メンバー、寮の同じ階に宿泊するフロアメンバーと親交を深めるにつれ寮生活にも慣れ、充実した日々を過ごすことができました。

特に、フロアメンバーは、研修時間外や休日も一緒に過ごすなど、寝食を共にし、多くの時間を共有する中でかけがえのない存在となりました。お互いを高め合える仲間に出会えたことは、私にとって本当に大きな財産となりました。この仲間たちとの繋がりをこの先もずっと大切にしていきたいと思えます。

6 おわりに

自治大学校での経験は、私の人生にとって大変貴重な経験となりました。自治大学校卒業生である誇りを胸に、得た知識や経験、ネットワークを活かし自治体職員としての職務を遂行していきたいと思えます。

最後に、繁多な職場状況にも関わらず快く送り出してくださった上司や職場の皆さん、コロナ禍にあっても安全に素晴らしい研修を実施し運営してくださった自治大学校関係者の皆さまや講師の方々、そしてかけがえのない時間をともに過ごしてくださった研修生の仲間たちに心から感謝を申し上げます。

ありがとうございました。